平成４年度赤潮貝毒監視事業（貝毒調査：抄録）

吉田正雄・大塚弘之・萩平　将

本事業は,特定有毒プランクトンに起因する二枚貝類の毒化実態を把握し,貝類の食品としての安全性を確保するとともに,漁業等への被害の軽減と未然防止を図ることを目的として,昭和 55 年度から継続実施中の事業である。

平成４年度における鳴門市「内の海」,小松島市「小松島湾」,阿南市「橘湾・椿泊湾」での毒化原因プランクトンの出現動向と環境および麻痺性・下痢性貝毒によるアサリの毒化実態について取りまとめたので報告する。なお,詳細については,「平成４年度赤潮貝毒監視事業報告書（貝毒調査)」を参照されたい。

1.　麻癌性貝毒原因プランクトン

A.tamarense：4～5 月及び 2～3 月に出現し,最高出現数は橘湾で 1,310cells／ℓ検出された。出現水温は 7.1～17.2℃,塩分は 25.8～32.8 であった。

A.catenella：5～7 月に出現し,最高出現数は橘湾で 68,500cells／ℓ検出された。出現水温は 15.6～26.7℃,塩分は 21.1～32.0 であった。

2.　下痢性貝毒原因プランクトン

D.fortii：4～7 月及び 3 月に出現し,最高出現数は橘湾で 40cells／ℓ検出された。出現水温は 11.1～23.3℃,塩分は 27.0～32.4 であった。

D.acuminata：4～7 月及び 2～3 月に出現し,最高出現数は橘湾で 1,500cells／ℓ検出された。出現水温は 8.8～28.3℃,塩分は 23.9～33.0 であった。

3.　ニ枚貝の毒化実態

アサリの可食部における麻痺性及び下痢性貝毒は,全水域とも全く検出されなかった。